

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年2月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4071602330		
法人名	大成産業株式会社		
事業所名	グループホーム いちょうの杜合川		
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市合川町 1392-1		(電話) 0942-45-8505

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成21年1月22日	評価確定日	平成21年4月6日

【情報提供票より】(21年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	13 人 常勤 12人, 非常勤 1人, 常勤換算 12.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名		
要介護3	0 名	要介護4	7 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.6 歳	最低	70 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	齋藤医院、小坪内科消化器科、毛利歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者が今まで生きてきた過程を知り、その人のあるがままを受け入れ、出来るだけその人らしい生活を送ってもらいたいという思いを持って、管理者を始め、職員は日々のケアに携わっている。利用者のことも、あえて名前では呼ばず、「お父さん、お母さん」と呼び、家庭の延長であると感じさせる。管理者が看護職であるため、看取りにも積極的に取り組んでおり、まさにその人らしい最期を送ることが出来るホームとなっている。しかし開設当初は、地域の方々の理解があまりない状況であったが今では理解が進み、気軽に立ち話をしたり、お互い野菜をおすそ分けし合ったりと出来るような関係となっている。利用者が365日、楽しい生活を送ることが出来るホームを目指して、試行錯誤しながらケアの実践に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の外部評価時における改善点については会議を開催して、改善に向けての話し合いを行い、改善できる部分については、積極的に改善に向けて取り組んでいるところである。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、項目をいくつかに分け、職員もグループ分けして、それぞれ担当を決めて作成。それをまとめて管理者が作成した。出来上がったものにも全員目を通して内容を確認している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回、自治会長や民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族の代表等に参加を呼びかけて開催している。会議ではホームの運営状況や行事等を報告したり、逆に地域の情報提供をしてもらったりしながら、それぞれの意見や感想を出し合う場としている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>行事ごとの後(年1回程度)に家族に集まってもらい、ホームに対する希望や要望を出してもらつ機会としているが、今のところ特に家族から、運営に関する意見は出ていない状況である。普段の面会時にも、「言いにくいことでも、何でも言って下さい」と声かけをしており、意見が言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、現在は隣組長として活動している。町内の秋祭りに参加したり、子供みこしに来てもらったりと、お互い気軽に行き来する関係づくりが出来ている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	「受容」「傾聴」「共感」という3つの言葉を理念として掲げられているが、今のところ、地域密着型サービスの役割については盛り込まれていない。	○	実際には地域との連携は密に取れている状況のようだが、理念の中にも地域密着型サービスの意義を盛り込む事により、事業所としての取り組みが地域の人たちや利用者の家族等にも、さらにわかりやすいものとなるのではないだろうか。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務の間やミーティング等の時間を使って、管理者から理念についての話をするようにしており、理念の共有は出来ている。また、フロアや事務所の中にも掲示しており、いつでも見れるようにしている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、現在は隣組長として活動している。町内の秋祭りに参加したり、子供みこしに来てもらったりと、お互い気軽に行き来する関係づくりが出来ている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、項目をいくつかに分け、職員もグループ分けして、それぞれ担当を決めて作成。それをまとめて管理者が作成した。昨年の外部評価時における改善点については会議を開催して、改善に向けての話し合いを行い、改善できる部分については積極的に改善に向けて取り組んでいるところである。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、自治会長や民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族の代表等に参加を呼びかけて開催している。会議ではホームの運営状況や行事等を報告したり、逆に地域の情報提供をしてもらったりしながら、それぞれの意見や感想を出し合う場としている。		

グループホーム いちょうの杜合川

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	本部は事業所協議会のグループホーム部会の事務局として活動しており、市の職員を始め、他のグループホームの職員と一緒にバリデーション等についての勉強会を行ったりしている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の対象者が入居してくる際に、勉強会を開催して、制度について学ぶ機会を持った。しかし、最近採用になった職員に対しては、まだ勉強会を行っていない状況である。利用者の家族に対しては、入居時に説明を行うようにしている。	○	再度勉強会等を開催して、さらに制度についての知識を深めていくことが望まれる。事業所協議会での勉強会等の開催も検討していくと良いのではないだろうか。
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来られた際に、暮らしぶりや健康状態についての話しをするようにしている。また、不定期ではあるが、法人全体にて『いちょうの杜合川新聞』を作成して、日々の様子を報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事ごとの後(年1回程度)に家族に集まってもらい、ホームに対する希望や要望を出してもらう機会としているが、今のところ特に家族から運営に関する意見は出ていない状況である。普段の面会時にも、言いにくいことでも、何でも言って下さい。」と声かけをしており、意見が言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職時には1ヶ月前には申し出てもらうようにしており、もしも離職等があった場合も、普段から全職員が密に情報交換を行い、何でも出来る体制を取っているため、引継ぎで困ることはない。そのため、利用者のダメージもそれ程大きくなるらない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人の介護に対する思いを重視しており、年齢や性別で採用から排除することはない。また、資格取得等、スキルアップを図っていくことを積極的に勧めるようにしている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育については、ミーティングや日々の業務の中で実践に基づいた形で話しをするようにしている。また、虐待防止の勉強会に参加した職員もおり、参加できなかった職員に対して伝達講習を行い、情報の共有を図っている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所協議会で月1回勉強会を開催しており、それに参加したり、法人内でも合同で勉強会を開催して、職員のスキルアップを図っている。外部研修にも積極的に参加している。しかし、現時点では職員それぞれのレベルに応じた教育を行うまでには至っていない。</p>	○	<p>職員のスキルや段階に応じて、研修を受講することが出来るように、事前に計画を立てた上で、取り組んでいくことが求められる。</p>
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内で立ち上げている、事業所協議会のグループホーム部会に参加しており、定期的に行われている勉強会等にも積極的に参加している。また、夏祭りやもちつきを他のホームと一緒に開催する等、ホーム間で相互訪問をする機会も持っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入所をしてもらったり事前に自宅や病院に面接に行ったりまた、事業所に見学に来てもらう等して、不安の軽減に努めている。家族と相談しながら対応を行っている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は人生の先輩であり、教えてもらうことはたくさんある。また相談しあったり昔の話を聞かせてもらったりしながら、お互い支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居相談に来られた時点で、利用者と家族に意向を聞くようにしている。入居後は、職員に対して少しずつ心を開いていってもらえるように、人間関係の構築を図りそれぞれの希望や意向を引き出すことが出来るように努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当制をとっているため、それぞれの担当者との職員で話し合いを行いながら計画の雛形を作成して、ケアプラン委員がチェック、その後管理者と計画作成担当者が最終的にチェックした上で作成するようにしている。家族の意見についても、担当者が事前に電話や面談時に聞くようにしている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1回、モニタリングを行った上で見直しを行い、新たな計画を作成している。状態に変化が見られた場合には、その都度見直しを行うようにはしているが、書類作成が間に合わないこともある。また、アセスメントについては入居時に取ったものしかなく、現在の状態が記録されていない。</p>	○	<p>計画は利用者や家族から同意を得た上で実行していかなければならないものなので、内容に変更が生じれば、その都度きちんと書類を作り換えていくことが望まれる。また状態の変化が見られた場合には、アセスメントの内容も変更すると思うので、それについても変更や追加を記載していくことが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看取りの時に、家族が宿泊する為の部屋を提供したり通院介助を行う等、利用者のその時々々の状況や要望に応じ、臨機応変に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて、元々のかかりつけ医への受診をしている利用者もいれば、協力医の受診を希望している利用者もいる。いずれも利用者と家族の意見を尊重した上で支援を行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りについての指針を作成しており、入居契約時に説明を行い、同意の記名・捺印ももらっている。実際にその状態になられた場合、かかりつけ医をはじめ、家族とも十分話し合いを行いながら連携を取りつつ、対応している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応は、プライバシーに配慮して行われている。また個人ファイルは事務所に置くようにしており、外来者からは見えないよう配慮されている。昨年の外部評価で、トイレの仕切りがカーテンであることを指摘されたが、ドアがついた職員用のトイレも自由に使うもらえるように改善、対応するようにした。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれが望んでいることを把握し、なるべく個別に対応するように努めている。また、それぞれのペースに合ながら、決して無理強いはいしないようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれのADLの状態に合わせて、準備や後片付け等、出来る範囲で関わりを持ってもらうようにしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や曜日等、利用者の希望に沿って入浴できるようにしている。時々入浴を拒否する利用者もいるが、言葉かけの仕方を考えて、うまく誘導するようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみをする人、日めくりカレンダーをめくる人、食事係等、それぞれの利用者の残存能力を活かせるような役割づくりがなされている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩を始め、猫たちと遊んだり近所のショッピングセンターまで買い物に出掛ける等、それぞれの希望を聞きながら、積極的に戸外に出かける機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけることなく、自由に出入りできるようにしている。利用者の状態に合わせて、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、避難訓練を行っているが、夜間想定による訓練はまだ行っていない。今後年2回開催し、夜間想定した訓練も開催する予定である。	○	建物の形状上、特に2階からの避難誘導には時間がかかると思われる。日頃から訓練を重ねて、いざというときに備えておくことが求められる。早急に夜間想定訓練も開催することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一汁三菜を心がけており、摂取カロリーも1日約1600キロカロリー程度を目安としている(管理者が看護師だったので、その経験上、おおよそのカロリーはわかる)。また必要に応じて、水分摂取量についても記録をつける場合もある。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を飾ったり、ソファやテーブル、装飾品等、一般の家庭にあるようなものを揃えられており、心地よく過ごせる空間作りがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具、人によっては仏壇等も持ち込まれており、自宅にいる感覚で居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		